

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	社会体験活動を通じた青少年健全育成のための新たな仕組みづくり
-----	--------------------------------

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年が地域において日常的・継続的に社会体験活動を行うことができる環境づくりをはじめ、放課後児童クラブの運営や地域の青少年活動等をサポートすることができる青年リーダーの養成などの新たな仕組みづくりにより、より多くの青少年に社会体験活動の機会を与えることで、健全育成を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【手】 目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	体験活動パンフレット(夏)・チラシ(冬)の全児童配布 ウェブサイトの活用による青少年体験活動の情報発信 青年リーダーの育成 青少年育成団体との連携強化 等				
これまでの進捗状況・今後の予定	予定どおり進捗		体験活動パンフレット(夏)・チラシ(冬)の全児童配布 ウェブサイトの活用による青少年体験活動の情報発信 青年リーダーの育成 青少年育成団体との連携強化 等				
【実】 実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	青少年の社会体験活動の充実			計画	青少年体験活動の推進	青少年体験活動の推進	年度
	青少年への体験活動情報の効果的な提供や、地域においてさまざまな体験活動に取り組むことができるモデルクラブの設置、また、青少年育成活動をリードする青年リーダーの育成等により、青少年の社会体験活動の充実を図ります。			実績	青少年体験活動の推進		内容
	青少年育成活動をサポートする青年リーダーの数			計画	-		年度
	プロジェクトチーム「青少年育成シニアリーダー会議」の設置等により、青少年育成活動のために不可欠な青年リーダーの育成を行います。 (「青少年育成シニアリーダー会議」の構成員数)			実績	21 人		内容
				達成度	%	%	
【コ】 コスト			事業費		千円	千円	
			うち一般財源		千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初の計画どおり、体験活動パンフレット「チャレンジキッズ」(夏号)およびチラシ「チャレンジキッズ」(冬号)の全児童配布や、ウェブサイト「こどもエール」による情報発信、戸畑区牧山校区での子ども地域体験活動クラブのモデル実施、青少年育成団体青年リーダー会議「ぼんて」の組織化等に取り組みました。

【事業の再検証】				
【評】 評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	青少年に様々な体験活動の機会や場を提供するための情報発信の強化や、青少年地域体験活動クラブのモデル実施、青少年育成団体青年リーダー会議「ぼんて」の組織化等、青少年の体験活動の推進に向けた新たな仕組みづくりは、青少年の体験活動不足が問題視される中、有効な取り組みです。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	青少年育成団体やNPO団体との連携等により、効率的に事業が実施できています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	青少年の体験活動不足が問題視される中、現在必要な取り組みです。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4	青少年育成団体との連絡調整等、市の担う役割は大きいと考えます。
【今】 今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	事業をさらに効果的に実施するため、青少年育成活動の現場が必要としている施策をあらためて調査したうえで、様々な仕組みづくりを行っていく必要があります。	

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	青少年の健全育成活動を担う青年リーダーの組織化や育成、青年リーダーや青少年育成団体、各種事業の社会的認知を高める新たな仕組みづくりに取り組み、子どもに様々な体験活動が有益であることの啓発をより一層強化します。 また、子ども地域体験活動クラブのモデル実施の箇所数を増やし、さらに発展させていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	青少年の家の整備・充実
-----	-------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年の家は、施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を目的とした社会教育施設です。 近年の少子化などの社会の変化や青少年のさまざまな体験不足が言われるなか、市民の新たなニーズや老朽化に対応するため、青少年の家の整備、充実を推進します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	計画的補修等	計画的補修等	計画的補修等	計画的補修	
	これまでの進捗状況・今後の予定	計画的補修(トイレ整備等) 緊急対応(防水工事等)	計画的補修等 かくめよし少年自然の家防水工事	計画的補修等	計画的補修	計画的補修	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	青少年の家の利用者数			計画			年度
	青少年の家の利用者数を指標として掲げました。			実績	183,147 人		内容
				達成度			
				計画			年度
				実績			内容
コスト	事業費	千円	千円				
	うち一般財源	千円	千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	トイレ整備工事等により、施設の利便性向上を図るとともに、緊急対応等のために実施した防水工事等により、施設の安全性などを確保し、今後の円滑な施設運用を図りました。
-------------------	------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】	評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	青少年施設については、市内中学1年生全員を対象とする「ふれあい学習」などの学校利用を含め、一般利用もあわせ、多くの利用があり、各施設において、機能整備を進めることにより、施設での事業も円滑に進められるとともに、快適性に対する利用者の評価も高まっています。
<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	必要かつ適切な投資により、機能整備を行い、今後ある程度の期間、確実に施設を運用できる見込が確保できれば、指定管理制度を導入することにより、施設の管理運営費用の削減につながる可能性も十分期待できます。
<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。			3	設置後、かなりの期間を経過しており、補修等による機能整備にも多くの費用を要する場合も想定されます。しかしながら、建替え、統合等による新築などには、財政的にもきわめて困難が伴うため、適切な手法による機能整備を行うことで、長寿命化を図り、活用していくこととしています。
<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。			3	施設機能を整備した上での指定管理への移行の場合でも、施設の根幹部分については、施設設置者である本市の責任は免れず、今後の利用に当たっての維持・快適性の向上には、引き続き、市の関与が必要です。
今後の方向性			A	【実施方法の改善が必要】 指定管理制度の導入による効果が見込める施設については、必要な補修等の機能整備を行ったうえで、管理運営方法を指定管理に改める手続き(公募・選定等)に着手することにより、指定管理制度導入による民間活力の活用、運営の効率性向上などの効果が見込めます。

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	引き続き、各施設の状況に応じた計画的補修を実施します。 かくめよし少年自然の家については、防水工事を実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	児童文化科学館の整備・充実
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	児童文化科学館では、科学教育の振興、児童文化の向上を図るため、プラネタリウム、展示物、科学教室などの体験を通じた科学事業、演劇会などの文化事業を開催します。また、展示物やプラネタリウム機器等についても整備を行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		これまでの進捗状況・今後の予定	耐震診断	耐震診断	【継続利用可能の場合】耐震計画・設計 【継続利用不可能の場合】更新方法について検討	【補強可能な場合】耐震補強施工 プラネタリウム更新 <時期未定>	【補強可能な場合】リニューアルオープン	
実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	利用者数				計画		年度	
	児童文化科学館の入場者数を指標としました。				実績	97,905 人	内容	
					達成度			
					計画		年度	
					実績		内容	
コスト					事業費	千円	千円	
					うち一般財源	千円	千円	

事業の実施結果・進捗状況の確認	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	建物の継続利用が可能との耐震診断結果が示されたことにより、児童文化科学館の今後のあり方やプラネタリウム投影機器の更新等について、現施設利用も選択肢とすることができることとなりました。
-----------------	-------------------------------------	---

事業の再検証				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	耐震診断を伴う老朽施設の更新という困難な条件の下で、児童文化科学館の再生に当たり、建物の状況(耐震性)を把握できたことについて、十分効果はあったものと考えています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	耐震診断に当たっては、今後の建物利用に向け、耐震性についての調査を法令等の規定に沿って、必要な経費により、十分かつ正確に行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	耐震対応の最終年限が平成27年度に迫っており、児童文化科学館について、耐震にかかる適切な対応を行うためには、今年度の耐震診断の結果を踏まえ、今後の耐震にかかる種々の手続きや児童文化科学館の今後のあり方の検討を円滑に進めることにより、市民のための児童文化科学館の再生が図られます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	昭和30年代に開設され、多くの市民に長く親しまれてきた児童文化科学館を次の世代に、学校利用を含む科学学習の拠点として伝えていくためには、市が積極的に関与して、更新(再生)を図ることが不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後の耐震化への対応を含めた児童文化科学館再生のスケジュール等の概要が見えてきたことにより、主要設備であるプラネタリウム投影機器の更新あるいは児童文化科学館の機能自体の見直しも含め、今後の施設のあり方と青少年をはじめ、幅広い世代に対する科学学習の場としての役割を検討する必要があります。	

次年度計画		
目的実現のために23年度に実施すること	平成22年度に行った耐震診断結果(補強工事を実施すれば、継続利用可能)も踏まえ、今後の施設再生利用に向け、施設のあり方や機能等について検討を行い、次年度以降の具体的な再生計画作成を目指します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	児童館の事業の充実
-----	-----------

【目的的要害】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	児童館の健全育成を促進する地域の拠点施設である児童館は、現在、小学校の利用が中心となっていますが、未就学児を持つ保護者からのニーズも高まっています。そこで子育て支援の一環として、小学生の利用が少ない平日の午前中などに、未就学児の親子向けの講座や教室などを実施し、充実を図ります。また、中高生などの居場所となるよう、行事プログラムの開発等を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	未就学児の親子向けプログラムの実施	・未就学児の親子向けプログラムの実施 ・中高生向けプログラムの検討	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	
これまでの進捗状況・今後の予定	未就学児利用者数 35,073人	・未就学児の親子向けプログラムの実施 ・中高生向けプログラムの検討	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	・未就学児の親子向け、中高生向けプログラムの実施	
実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	未就学児の利用者数				計画		
	利用者数の増加が、利用者の満足度の高い事業であることを示すことになるため、活動指標として掲げました。				実績	35,073 人	内容
					達成度	%	
					計画		年度
					実績		内容
				達成度	%	%	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	児童館による積極的な事業展開により、利用者が順調に推移しています。
-------------------	------	-------------------------------------	-----------------------------------

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	未就学児向けのプログラムの充実を図ったことで、幼児の利用が増加し、一定の効果がありました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	児童館の運営について、「指定管理者制度」を導入しており、経済的・効率的な運営をおこなっています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	未就学児を育てている子育て世代からのニーズは高く、適時性は高いと言えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域の子育て支援施設である児童館で実施する事業であり、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		ウ	今後も、未就学児向けのプログラムの充実を図り、より多くの未就学児の利用を促進していきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	利用促進に向け、より魅力的なプログラムを開発します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	青少年ボランティアステーション推進事業
-----	---------------------

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年の成長に欠かすことができないさまざまな体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として、規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア体験活動を支援、促進します。また、ひきこもりや非行等の問題を抱える少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	青少年のボランティア体験活動情報の提供、活動調整、活動時の支援、青少年ボランティアクラブの運営等				
これまでの進捗状況・今後の予定		ボランティア体験活動者数(延べ人数) 5,518人	青少年のボランティア体験活動情報の提供、活動調整、活動時の支援、青少年ボランティアクラブの運営等				
実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	ボランティア体験活動者数(延べ人数)			計画	2,400 人	2,600 人	年度 平成26年度
	実際にボランティア活動に取り組んだ青少年の人数が、本事業の活性化を計る指標となるため。			実績	5,518 人		内容 3,200人
				達成度	229.9 %	%	
				計画			年度
				実績			内容
コスト			事業費		千円	千円	
			うち一般財源		千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度から、青少年ボランティアステーション(ウェルとばた3階)の組織を、夜宮青少年センターから青少年課に移管し、様々な事業を連携して実施すること等により、ボランティア体験活動者数も大幅に増加しました。
-------------------	------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】	評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	ボランティア体験を行った青少年の数は着実に増加しており、青少年へ有効な社会体験活動の機会や場の提供ができています。現代の青少年に不足しがちな様々な体験活動を、ボランティア活動への参加を通じて経験させる本事業は、人づくりのために大変有効です。
経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	平成22年度から、青少年ボランティアステーションの組織を夜宮青少年センターから子ども家庭局青少年課に移管し、様々な事業を連携して実施すること等により、効率的な事業実施が図ることができました。	
適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	青少年が規範意識や社会性、協調性等をはぐむために不可欠な体験活動の機会や場を提供する施策として、継続的に実施していく必要があります。	
市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	学校をはじめ、関係機関との連絡調整等、市の担う役割は大きいと考えます。	
今後の方向性		評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	青少年にとって、家庭や地域における様々な体験活動不足が、社会とのかかわりの自覚や自己の確立・向上を阻害しているといわれています。今後も、ボランティア活動をはじめとした豊富な体験活動メニューの提供等の取組みを進めていくことが必要であると考えます。

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	中心事業のひとつである「夏休みの青少年ボランティア体験」の事業PRや新たなプログラムづくりに力を入れ、小・中学生によるボランティア体験活動者の一層の充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	青少年施設ボランティア養成事業
-----	-----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年施設をボランティア活動の場として積極的に提供するとともに、ボランティアに関する研修等を行うことで、青少年の健全育成や社会参加等を支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	各青少年施設において研修会を実施、合同ボランティア研修会の実施						計画変更理由
		これまでの進捗状況・今後の予定	各青少年施設において研修会を実施するとともに、各施設ボランティアの合同研修会を実施	平成23年度から、青少年体験活動等活性化事業の中で青年リーダーの育成事業と併せてより効果的に事業を実施します。					
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
		青少年施設ボランティア登録者数			計画	260 人	270 人	年度	平成26年度
		青少年施設で活動するボランティアを養成することを目的としています。			実績	259 人		内容	300人
					達成度	99.6 %	%		
					計画			年度	
					実績			内容	
				達成度	%	%			
	コスト	事業費				973 千円	千円		
うち一般財源				973 千円	千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各青少年施設において施設ボランティアの研修会を実施するとともに、各施設ボランティア間の相互交流を深め連携を図ることを目的とした施設ボランティア合同研修を実施するなど、当初の計画どおり進捗しています。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	青少年施設ボランティアは、青少年施設における主催事業等に欠かせない人材となっており、またボランティア自身の社会体験活動の場としても、非常に有益であるなど、効果は高いものがあります。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	青少年施設ボランティアにかかる必要経費(保険代、交通費等)が予算の大半であること、また青少年施設の主催事業がそのまま施設ボランティアの活動の場となることを考えると、事業の費用対効果は高いと評価しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	青少年による体験活動不足が問題視される中、子どもの自然・集団体験事業の運営補助を行いながら、自らも社会体験を行う本事業は、継続的に実施すべきであると考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市の青少年施設における仕組みであり、実施主体は市が適当です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	研修事業については、青少年施設における専門研修のみならず、広く青少年育成活動に関わる青年リーダーを対象とする研修等も併せ、より効果的に実施します。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	研修事業については、青少年体験活動等活性化事業の中での青年リーダーの育成事業と併せて、より効果的な実施を目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	北九州市青少年ボランティア奨学金事業
-----	--------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	さまざまなボランティア活動への青少年の参加促進と人材の育成・確保のため、優れた活動を行っている生徒、学生に対して、奨学金を給付します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		青少年の社会貢献活動(ボランティア活動)の活性化に向け、補助金の給付								
	これまでの進捗状況・今後の予定	奨学金受給者数: 18人		青少年の社会貢献活動(ボランティア活動)の活性化に向け、補助金の給付						
		成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標		
	実施状況	奨学金受給者数		計画	20 人	20 人	年度	平成26年度		
		ボランティア活動を行う青少年の裾野を広げ、質の高い活動を行う青少年を発掘し、広く社会的認知を高めます。		実績	18 人	人	内容	20人		
				達成度	90 %	%	内容	20人		
				計画			年度			
	実績					内容				
	コスト			事業費	1,993 千円	2,410 千円				
うち一般財源				1,993 千円	410 千円					

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	18人の奨学生(申請21人)に対し奨学金を交付し、奨学生の活動報告会を開催するなど、当初の計画どおり進捗しています。 【活動内容】 10月1日~29日: 奨学生募集、1月11日: 選考検討会、2月19日: 活動報告会、3月: 奨学金交付
-------------------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	青少年の社会貢献活動(ボランティア活動)の活性化に資することができています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	青少年ボランティアステーション推進事業との連携等により効率的に事業が実施できています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	ボランティア活動を行うことが、青少年自らの社会体験にもつながっています。青少年の体験活動不足が問題視される中、ボランティア活動に取り組む青少年の増加を図るだけでなく、青少年による体験活動の有益性を啓発する意味においても、時機にあった事業です。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	北九州市篤志奨学金基金(教育委員会所管)を財源としており、市以外が実施することは困難です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	高校・大学のボランティアサークルやボランティア関係団体等への積極的な事業PRや、奨学生の表彰等により、青少年による社会貢献活動の社会的認知や評価を高めます。

【次年度計画】		前年度に評価した今後の方向性
目的実現のために23年度に実施すること	北九州市若者応援サイト「エール」や子育てマップ北九州などのHPを活用した積極的な事業PR、奨学生選考方法の見直し(面接)等を検討します。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	野外教育等推進事業
-----	-----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年施設での自然体験活動や共同生活体験等を通して、青少年が自然を大切にする心や協調性等の「生きる力」を身に付けることを目的に、登山やキャンプ、野外調理等の野外教育事業を実施します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	平成22年度 施設利用者 延人数 120,000人	平成23年度 施設利用者 延人数 120,500人	平成24年度 施設利用者 延人数 121,000人	平成25年度 施設利用者 延人数 121,500人	平成26年度 施設利用者 延人数 122,000人	計画変更理由		
		これまでの進捗状況・今後の予定	施設利用者 延人数 114,919人	施設利用者 延人数 120,500人	施設利用者 延人数 121,000人	施設利用者 延人数 121,500人	施設利用者 延人数 122,000人			
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		4 青少年宿泊施設の利用者数					計画	120,000 人	120,500 人	年度
		利用者数の増加をもって当該事業の活動指標として掲げました。					実績	114,919 人		内容
							達成度	95.8 %	%	122,000人
							計画			年度
							実績			内容
						達成度	%	%	内容	
						コスト				
					うち一般財源	1,449 千円	3,211 千円			

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	施設利用者延人数は、玄海青年の家53,597人、もじ少年自然の家37,901人、かぐめよし少年自然の家10,681人、たしる少年自然の家12,740人となっており、当初の計画どおり進捗しています。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	自然体験活動の機会が少ない現在の子どもたちにとって、各青少年施設の豊かな自然環境の中で、各施設の特徴を活かした自然体験プログラムを経験できることは、大変有意義であると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 事務費等の削減に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 平成22年10月に、国立青少年教育振興機構が発表した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書では、幼少期における「体験活動」の有用性が高いことが報告されていることから適時性はきわめて高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	市の施設における取り組みであるため、市が実施主体であるのが適切です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	当該事業は、子どもたちが自然体験活動や集団生活体験を経験することにより、自然を大切にする心や自立心、規律、協調性などの「生きる力」を身に付けていく上で、高い効果があるため継続します。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	各青少年施設の野外活動をはじめとする主催事業に、より多くの子どもたちの事業参加を促すため、積極的に事業PRを行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	チャレンジ100キロ ～歩け北九州っ子 若武者の旅～
-----	----------------------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	4泊5日の共同生活をしながら、市内の山々の登山を含む全行程100キロを歩き通すことに挑戦することにより、心身ともにたくましい子どもの育成を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
			これまでの進捗状況・今後の予定	参加者数：99人	心身ともにたくましい子どもの育成に向けた取り組みを推進				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標		
	参加者数				計画	100 人	100 人	年度	平成26年度
	自然・集団体験事業の有益性に対する市民(特に保護者)の理解度を示す指標として掲げました。				実績	99 人	人	内容	100人
					達成度	99 %	%	年度	
					計画			年度	
					実績			内容	
				達成度	%	%	年度		
【コスト】					事業費	894 千円	1,196 千円		
					うち一般財源	894 千円	1,196 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	3月25日(金)～29日(火)4泊5日で事業を実施。市内在住の小学4年生～中学3年生合計99人(男子52人、女子47人)。ボランティア・市職員等のスタッフ約40人で実施。当初の計画どおり進捗しています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

【評価】	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	毎年、たくましい北九州っ子が誕生していることはもとより、子どもの自然体験や集団体験の有益性を啓発する事業としても大変効果が高いと考えます。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	経費を削減し、平成22年度から参加費を減額(15,000円→13,000円)しました。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子どもの様々な体験活動不足が問題視される中、本市の青少年健全育成の目玉事業として、継続的に実施することが大切です。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	3	青少年施設(たしろ少年自然の家、かぐめよし少年自然の家、もじ少年自然の家、玄海青年の家、児童文化科学館、夜宮青少年センター)と青少年課による連携事業として実施することが効率的です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も、心身ともにたくましい子どもの育成とともに、青少年の自然・集団体験の有益性を啓発する目玉事業として効果的に実施します。	

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	活動プログラムの充実と実施体制の更なる効率化を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局青少年課
連絡先	583-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	中高生の居場所づくりの推進
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	夜宮青少年センターにおいて、中高生が、気軽に学習やスポーツ、文化活動、仲間との懇談等を行える環境を整えることにより、中高生の居場所づくりを支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	夜宮「中高生クラブ」の実施 夜宮中高生講座の実施 ボランティア事業との連携				
	これまでの進捗状況・今後の予定	登録者数:18名	夜宮「中高生クラブ」の実施 夜宮中高生講座の実施 ボランティア事業との連携				
【実施状況】	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	登録者数		計画		年度		
	夜宮「中高生クラブ」の登録者数を指標として掲げました。		実績	18 名	内容		
			達成度				
			計画		年度		
			実績		内容		
【コスト】	平成22年度より「野外教育等推進事業」へ統合されており、予算額・決算額については全体額を計上している。				事業費	1,450 千円	3,211 千円
					うち一般財源	1,450 千円	3,211 千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 予定どおり事業を実施しました。

【事業の再検証】				
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	2	夜宮「中高生クラブ」会員として登録した18名については、ダンスやバンド活動等を行い居場所として有効に活用されたが、市内の中高生全体を対象と考えた場合はその有効性は低いと考えます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	夜宮青少年センター内での活動のため、低コストでの実施が可能です。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	不安や困難を抱える青少年が増加する中、仲間とともに集える“居場所”があることによる孤独感の解消や、講座を通じたさまざまな体験など、青少年の健全育成に資することから適時性は高いと考えます。	
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	市が実施するさまざまな青少年健全育成事業や関連団体の活動との連携を図りながら、ハードソフト両面からの青少年の“居場所”を積極的に提供していく必要があります。	
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	ハード面の“居場所”にとどまらず、青少年ボランティアステーションとの情報交換や連携等も充実させ、さまざまな活動への取り組みや仲間とのふれあい等を通じた、“心の居場所づくり”を更に推進していく必要があります。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	中高生に求められる居場所としてのさらなる機能充実について検討します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	保健福祉局・総務課
連絡先	582-2403

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	福祉・ボランティア教育用副読本の作成
-----	--------------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	小中学生が、地域社会の一員であることを理解し、他人を思いやる心やボランティア精神を育むことができるように、教育委員会や関係団体等との協働により、福祉・ボランティア教育用副読本を作成し、市内の国公私立の小・中・特別支援学校へ配布します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【手】	目的実現の為に実施する内容		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
			実施工程	当初の予定	副読本の作成・配布 中学生用副読本の指導書の作成・配布			
	これまでの進捗状況・今後の予定		副読本の作成・配布 中学生用副読本の指導書の作成・配布		小学生用副読本の全面改訂			
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
		配布学校での授業中の利用率			計画			年度
		学校での活用が副読本の活用促進の取組の一環として、中学生用副読本の教師用指導書及び授業でそのまま活用できるワークシート等を掲載した付属資料集(CD-ROM版)を新規作成し、市内の全中学校(特別支援学校を含む)の担当教員等に配布しました。なお、副読本の授業中の利用率については、指導書の配布が平成23年3月末となったため、平成23年度においてアンケート調査により把握予定です。			実績			内容
					達成度			9割以上
					計画			年度
					実績			内容
					達成度			
	コスト				事業費	3,850 千円	5,546 千円	
					うち一般財源	3,850 千円	5,546 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成23年度版小学生・中学生用副読本を作成し、平成23年3月末までに市内の小中学校、特別支援学校等に配布しました。また、あわせて副読本の活用促進の取組の一環として、中学生用副読本の教師用指導書及び授業でそのまま活用できるワークシート等を掲載した付属資料集(CD-ROM版)を新規作成し、市内の全中学校(特別支援学校を含む)の担当教員等に配布しました。なお、副読本の授業中の利用率については、指導書の配布が平成23年3月末となったため、平成23年度においてアンケート調査により把握予定です。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	副読本は、毎年市内の全小中学校に配布し、継続して活用されていることから、福祉・ボランティア教育を実践するツールとして不可欠となっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	副読本の全面改訂は6年に一度にとどめており、また企画コンペで委託業者を決めるなど、コストを抑えながら内容の充実に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	北九州市の地域福祉を推進するためには、将来を担う子どもたちが、その成長に合わせて、学校や地域、家庭で福祉のこころを学ぶ福祉・ボランティア教育の実践が不可欠であり、同事業によって効果的に行うことが期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	副読本の作成や活用にあたっては教育委員会や建設局などの関係部局、ボランティアセンターなどの関連機関や団体が連携を図りながら行う必要があるため、市が実施主体とすることが適当と考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	学校や地域において福祉・ボランティア教育を効果的かつ継続的に実践するうえで、副読本は重要なツールとなっており、今後も使用率を高められるような工夫や改善を図り、事業を実施していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	副読本及び教師用指導書の市内小中学校、特別支援学校、関係機関への配布を行うほか、学校における副読本の活用促進を図るため、教育委員会との連携により、積極的なPRを行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	交通局・総務経営課
連絡先	771-8401

<b>政策分野</b>	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
-------------	---------------------------

<b>事業名</b>	夏休み子どもバスぼ〜と
------------	-------------

<b>【目的の概要】</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの社会参加、自立、自主性の育成に貢献するとともに、子育てに対する保護者の経済的負担や送迎の負担を軽減するため、夏休み期間中に小・中学生向けに、1日乗車券の料金(小学生350円、中学生700円)で、7日間市営バスの全路線乗り放題の乗車券を発売します。
	その結果、実現を目指す施策名	<b>施策名</b> 青少年の健全育成

目的実現の為に実施する内容	実施工程	実施状況	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
			当初の予定	事業の継続実施							→
			これまでの進捗状況・今後の予定	発売件数: 423件 (内訳) 小学生: 222件 中学生: 201件	事業の継続実施						→
			成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標			
		発売枚数			計画	1,000 枚	1,000 枚	年度			
		発売枚数が、利用者の満足度のスケールとなるためです。			実績	423 枚		内容			
			達成度	42.3 %	%			1,000枚			
					計画			年度			
					実績			内容			
					達成度	%	%				
		コスト			事業費	千円	千円				
					うち一般財源	千円	千円				

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

<b>実施結果</b>	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	少子化の影響や利便性・安全面からのマイカーへの回帰等により、発売枚数は減少傾向となっています。
-------------	-------------------------------------	---

**【事業の再検証】**

<b>評価</b>	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	<b>4</b>	乗車券を発売することによって、子どもの社会参加、自立、自主性の育成等に貢献しています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		<b>4</b>	経費はほとんどかからないので、経済性・効率性は高いと考えます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		<b>4</b>	事業を継続することにより、高い効果が得られます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		-	<備考> 市営バス利用者を対象とした事業であり、交通局が関与する必要があるため評価できません。
<b>今後の方向性</b>	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	有効性を発揮しており、現状のまま継続することが適当です。

**【次年度計画】**

目的実現のために23年度に実施すること	今後も積極的にPRを行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-----------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会生涯学習課
連絡先	582-2385

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	家庭・地域・学校の連携推進
-----	---------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの健全育成には、学校での学習だけでなく、仲間との遊びや世代間交流、様々な生活体験などが不可欠です。しかし、少子化や核家族化などにより現代の家庭環境の中では、その機会を十分に確保することが難しくなっています。そこで、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校等が連携して、子どもたちに様々な体験活動の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	地域・子ども交流事業の実施箇所(市民センター) 124館						
これまでの進捗状況・今後の予定	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数 62,111人	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数 60,000人	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数 61,000人	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数 62,000人	新たな計画に基づき実施する予定				
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数			計画	平成22年度 59,000 人	平成23年度 60,000 人	年度	平成25年度
		世代間交流やさまざまな体験活動の機会等を提供する事業を全市民センターで実施します。			実績	62,111 人		内容	62,000人
					達成度	105.3 %	%		
					計画			内容	
					実績				
					達成度	%	%	内容	
計画									
【コスト】	事業費	平成22年度			平成23年度			目標	
		3,608 千円			4,561 千円				
【コスト】	うち一般財源	平成22年度			平成23年度			目標	
		2,834 千円			3,693 千円				

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市民センターにおいて、「地域・子ども交流事業」(129館、延べ57,159人)、「生活体験通学合宿」(4館、延べ824人)、「生き生きバリアフリー」(8館、延べ4,128人)を実施し、参加者数は増加しています。
--------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	様々な体験活動や異年齢交流を通じて、子どもたちの自立・生きる力を育成するとともに、事業の運営を通じて、地域の教育力の向上を図ることができました。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4 適宜、国の補助金を活用するとともに、地域の人材やボランティアの協力を得ながら、多様なプログラムを効率的、効果的に実施した結果、参加者数は増加しています。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4 少子化や核家族化が進み人間関係が希薄化する中で、子どもが異学年や地域の大人との交流をはじめ、様々な体験をすることは、子どもの健全育成の観点はもとより、地域ぐるみで子どもを見守り育てていく雰囲気づくりのためにも重要であり、引き続き実施することが必要と考えています。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4 市民センター事業として定着してきていますので、引き続き地域の理解、協力が得られるよう呼びかけていくことが必要と考えています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	少子化や核家族化が進展する中で、子どもたちに様々な体験活動を提供することは有意義であり、市民センターでの取組みは定着してきていますので、引き続き地域の協力を得ながら、その機会の充実に取り組んでいきます。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市民センターにおいて、「地域・子ども交流事業」(129館)、「生活体験通学合宿」(4館)、「生き生きバリアフリー」(6館)を実施する予定です。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	児童健全育成ボランティア推進事業
-----	------------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	児童館における児童健全育成活動や子育て支援活動をより充実し、地域全体に広げていくために、児童館を拠点として活動しているボランティア組織「みらい子育てネット(母親クラブ)」の活動を支援し、その充実を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援		「みらい子育てネット」への支援
	これまでの進捗状況・今後の予定	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援	「みらい子育てネット」への支援		
【実施状況】		「みらい子育てネット」の活動への支援			計画	平成22年度	平成23年度	目標
					実績			
		「みらい子育てネット」の活動内容を支援し、その活動内容の充実を図ります。			達成度	%	%	内容
					計画			年度
					実績			内容
					達成度	%	%	
【コスト】					事業費	3,497 千円	3,570 千円	目標
					うち一般財源	2,489 千円	2,562 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	「みらい子育てネット」16クラブにおいて、公園の安全点検や児童館での絵本の読み聞かせ、紙芝居、児童館まつりなどを実施しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	「みらい子育てネット」の活動に対し、地域の子育て世代から感謝の声も聞かれ、地域活動の推進に寄与している。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	市からの支援を利用し、効率性が高い活動を行っています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	児童館における児童健全育成活動や子育て支援活動を充実させ、地域活動の推進を図るためにも、適時性が高いと考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	市の支援が、「みらい子育てネット」の活動の充実に寄与しており、市が関与することは適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		ウ	今後も「みらい子育てネット」の活動への支援を継続します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き「みらい子育てネット」の活動の支援を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-----------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	子ども会等地域活動推進事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの地域での活動を活性化するため、地域で子どもたちが活動し成長する環境づくりや、そのような活動に携わる市民への支援を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	遊びの達人派遣事業 出前講演開催 など				
これまでの進捗状況・今後の予定	遊びの達人派遣事業 57団体、3,528名 出前講演開催 など 12件		遊びの達人派遣事業 出前講演開催 など				
実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	遊びの達人派遣事業参加者数			計画		4,000 人	年度
	地域での子どもの活動の活性化につながるため			実績	3,528 人		内容
				達成度	%	%	
	出前講演参加者数			計画		500 人	年度
	地域での子どもの活動の大切さの啓発を行なう出前講演に参加した市民の数を指標とた			実績	400 人		内容
			達成度	%	%		
コスト	事業費	1,654 千円	1,487 千円				
	うち一般財源	千円	千円				

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	遊びの達人派遣事業をはじめとする、子ども会等地域活動の推進に関する出前講演の実施など、概ね順調に推移しています。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	遊びの達人派遣による子どもたちの体験活動や、出前講演による子どもの地域における活動の大切さの普及啓蒙などは、子ども会をはじめとする地域で活動している団体等から高い評価を得ています。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	事務費等の事業費の削減に努めました。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	平成22年10月に、国立青少年教育振興機構が発表した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書では、幼少期における「体験活動」は有用性が高いことが報告されていることから、適時性は極めて高いと考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	子ども会や地域で活動している団体、地元、行政が一体となって、地域に根ざした子どもたちの活動の活性化を図るためには、市が主体的に関与することが望ましいと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	出前講演等で、着実に子どもの地域での活動を活性化させる啓蒙活動を実施していく一方、「子ども会」という形式にとらわれず、地域で子どもの健全育成を図る様々なスタイルの団体を広く支援していきます。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	遊びの達人派遣事業、出前講演等の制度周知について、積極的に取り組みます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">22</span> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
--	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

<b>政策分野</b>	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
-------------	---------------------------

<b>事業名</b>	遊びの広場促進事業
------------	-----------

<b>【目的の概要】</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	異年齢集団活動や自然体験など、子どもの主体的な体験活動を促進し、子ども会をはじめとした青少年育成団体等の活動の活性化を図るため、市内の団体・グループが実施する子どもの体験活動の中から、他のグループ活動の参考になる事業に対して補助金交付等の支援を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	<b>施策名</b> 青少年の健全育成

<b>【手続】</b>	<b>目的実現の為に実施する内容</b>	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
				助成団体数 10団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体			
		活動に対する補助金の交付(上限20万円)									
		これまでの進捗状況・今後の予定	助成団体数 7団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体	助成団体数 10団体				
			活動に対する補助金の交付(上限20万円)								
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成22年度	平成23年度	目標	
		助成団体数						計画	10 団体	10 団体	年度
		予算内において、補助金上限額で交付した場合、最大で10団体となるため、活動指標として掲げました。						実績	7 団体		内容
								達成度	70 %	%	
								計画	-		年度
実績											内容
						達成度	%	%			
						コスト					

<b>【事業の実施結果・進捗状況の確認】</b>	
<b>実施結果</b>	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 7団体の申請に対し、7団体に交付決定しました。

<b>【事業の再検証】</b>				
<b>評価</b>	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	他団体のモデルケースとなるような成功事例や行政の事業施策の参考となる事例も出ており、その有効性は極めて高いと考えます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	有識者による選考検討会で、補助対象・補助金額等を厳正に審査した結果に基づき、補助金交付しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	平成22年10月に、国立青少年教育振興機構が発表した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書では、幼少期における「体験活動」の有用性が高いことが報告されていることから、補助金交付により体験活動等をはじめとする多様な事業を実施する団体の活動に資する補助金交付の適時性は極めて高いと考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	補助金交付によって、各団体の多様な事業を支援できること、またそでの成功事例は他団体の活動の参考となると同時に、行政の事業施策にも活用できることから、市の関与が必要です。
<b>今後の方向性</b>	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	<b>ウ</b>	近年、既存の青少年育成団体加入者数は減少傾向にある一方、既存の青少年育成団体に加入せず、各地域において多様な青少年育成活動を行う団体は増加傾向にあります。このため、このような地域団体の青少年育成活動も支援していく必要があるため、今後とも、制度の周知や成功事例報告を積極的に実施していきます。	

<b>【次年度計画】</b>		
目的実現のために23年度に実施すること	制度の利用促進を図るため、積極的なPR等を行うとともに、活動事例の報告についても、効果的な周知方法を工夫します。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	青少年団体指導者養成総合事業
-----	----------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子ども会等の青少年団体において指導にかかわる人や、子どもの育成活動に関心を持つ人等を対象に、指導者としての資質向上を目的とした研修等を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	研修事業の実施					計画変更理由
		平成22年度をもって事業終了						
	これまでの進捗状況・今後の予定	青少年団体指導者養成講習会を実施						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標	
				計画	研修会の実施		年度	
				実績	研修会の実施		内容	
				達成度	%	%		
				計画			年度	
				実績			内容	
	コスト	事業費	40 千円	千円				
うち一般財源		40 千円	千円					

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	11月6日(土)、こどもの館において青少年団体指導者養成講習会「レクマスター養成講座」を実施しました。
-------------------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】				
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	2	児童心理や安全管理、レクリエーション技術等、子どもの育成活動に関する研修は様々に行われており、有効性は低くなっています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		2	事業の有効性からみて、費用対効果はやや低いと判断しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		2	青少年の体験活動不足が問題視される中、青少年の健全育成活動を担う人材の資質向上は重要ですが、対象を青少年育成団体の指導者以外にも広げる等の工夫が必要です。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		2	市以外が実施する研修事業も多くあり、市が直接行う必要性は低いと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	I	I	事業終了

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	今後は、青少年体験活動等活性化事業の中での青年リーダーの育成事業や青少年の体験活動の推進に向けた新たな仕組みづくりを図る事業と併せて、より効果的な実施を目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">22</span> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
--	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・青少年課
連絡先	582-2392

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	青少年団体育成補助金
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	青少年の健全育成や非行防止活動を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して、補助金を交付し支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		北九州市子ども会連合会をはじめとする社会教育関係団体の運営・活動への補助金交付							
	これまでの進捗状況・今後の予定	365の青少年育成団体に交付			北九州市子ども会連合会をはじめとする社会教育関係団体の運営・活動への補助金交				
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標
		補助金交付団体数					計画	-	年度
		青少年団体の運営や活動に対して、補助金を交付し支援します。					実績	365 団体	内容
							達成度	%	
							計画		年度
							実績		内容
						達成度	%	%	
コスト									
	うち一般財源	千円	千円						

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	365の青少年育成団体にに対し、6,829千円を交付しました。
------	-------------------------------------	---------------------------------

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	青少年育成団体への事業補助により、各団体の健全な運営が保たれている結果、市内における青少年の健全育成活動や非行防止活動の推進が図られました。行政が主催する事業への協力も得られるなど、民間と行政の協働による青少年健全育成の推進が図られています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	従前より、各青少年育成団体の事業実態を踏まえ、補助金がより一層効果的に利用されるよう、指導しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	平成22年10月に、国立青少年教育振興機構が発表した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書では、幼少期における「体験活動」の有用性が高いことが報告されていることから、補助金交付により各青少年育成団体における体験活動等をはじめとした青少年育成事業が健全運営されていることから、適時性は極めて高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	補助金交付が各青少年育成団体の自主活動に欠かせない重要な役割を担っていることから、市が関与すべきと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	青少年育成団体が健全に運営されることは、青少年の健全育成を図る上で、最も大切なこととなるため、今後とも継続する必要があります。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	各青少年育成団体とも加入者数が減少傾向にあることから、補助金交付だけでなく、各青少年育成団体の活動PR等も積極的に行います。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局スポーツ振興課
連絡先	582-2395

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	北九っ子！パワーアップ大作戦事業
-----	------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	全国体力・運動能力等調査において、全体的には向上傾向ではあるものの、本市の小・中学生の平均は多くの種目で全国平均を下回りました。その原因として、子どもたちが活動する場所や機会の減少、保護者の運動・健康の重要性の認識不足があげられます。また小学校高学年から、運動する子としない子が二極化する傾向にあります。以上の点を課題としてとらえ、子どもたちが早期から運動に親しむ習慣を身につけるきっかけづくりと、保護者への啓発に重点をおいて事業を展開し、子どもの体力向上を図るものです。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する手段	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	
	これまでの進捗状況・今後の予定	全国平均同等以上4種目	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	全国平均同等以上34種目	→
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標		
	全国体力・運動能力調査結果の市平均向上		計画	34 種目	34 種目	年度	平成26年度
	未就学児から中学生までの間で、子どもの成長段階に合わせて、「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ」、「ジュニアスポーツ体験教室」、「ジュニアスポーツステップ・アップフェスタ」を実施し、子ども体力向上を促進します。		実績	4 種目		内容	34種目
			達成度	11.8 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			年度	
コスト			事業費	7,925 千円	8,050 千円		
			うち一般財源	6,875 千円	8,050 千円		

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	・平成21年度の10種目に比べ、平成22年度、全国平均と同等以上の記録は4種目と大きく下回りました。中学2年女子は平成21年度同様全種目で全国平均を下回りましたが、9種目中6種目が伸びを見せました。追調査ではないので比較することは難しいですが、平成21年度に比べて中学女子の記録は向上しているといえます。ただし、全体的には依然全国平均以下ですので、今後も取り組みの強化が必要になると考えられます。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	2	体力・運動能力調査の結果、北九州市平均が全国抽出平均値より同等以上の種目は、平成21年度で「10種目」、平成22年度「4種目」と減っています。対象人数や時間なども制限があるため、即効性は認められませんが、一度体験するとリピーターも多く、日ごろから運動を行う際のきっかけづくりにはなっています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	各事業とも、十分な経験を持つ指導者をお願いしており、人数の上でも充実しています。実施場所も市のスポーツ施設や学校・幼稚園などを利用していますので、低コストで有効な教室が実施できています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	3	スポーツ少年団等に加入していない子どもたちは、運動の楽しさを十分に体験したことがないので、この事業に参加することで、自分の得意・不得意を理解し、運動に取り組もうとする姿勢が出てくると思われます。運動する子としない子の二極化減少を減らすためには、効果があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	広く市民に広報し、市内のスポーツ施設を利用し、学校へも呼びかけすることから、市の関与が必要不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	子どもの体力向上の目安としている全国体力・運動能力調査結果の平均値を上げるためには、運動に取り組んでいない子どもたちに、いかに効果的に運動の意義を伝え、運動習慣を身につけさせるかがポイントになります。しかし実際は、高学年になればなるほど教室参加が少なくなっています。いかに運動をしない子や運動嫌いな子どもたちとその保護者にアプローチをしていくか、また、より多くの市民に事業に参加してもらうのかを検討する必要があります。今後も学校や他局との連携を強化しながら、効果的な事業を実施していきます。	

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	・他部局課(青少年課)との連携を深め、より効果的、継続的に運動に取り組むきっかけづくりを行います。また、出張教室を市民センターで行なうようにして、体力や運動への意識向上を地域に広げていきます。学校を通じて児童、生徒に広報していくこと、学校から運動をしていない子へ参加を促していくこと等、教育委員会と連携して事業を進めていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局スポーツ振興課
連絡先	582-2395

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業
-----	---------------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	総合型地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、多世代、多種目、多志向という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことで、これからの地域スポーツの中核を担う役割を期待されています。本市では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を向上するためにも、総合型クラブの果たす役割は大きいと考えており、総合型クラブの会員数拡大を支援していきます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	設立補助金 2団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	設立補助金 1団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	設立補助金 1団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動		連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動
	これまでの進捗状況・今後の予定	設立補助金 2団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	設立補助金 1団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	設立補助金 1団体 連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動	連絡協議会の開催 6回 継続的な広報活動		
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）	総合型地域スポーツクラブの会員数			計画	平成22年度 1,650 人	平成23年度 2,000 人	目標 平成26年度 2,300人以上
		総合型地域スポーツクラブの会員数を増やすためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR活動の強化のみではなく、クラブの質の向上を図るため、交流行事や勉強会を定期的開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。			実績	1,940 人		内容
					達成度	117.6 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
					達成度	%	%	
【コスト】		事業費			平成22年度 4,390 千円	平成23年度 4,459 千円		
		うち一般財源			4,390 千円	4,459 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市のホームページを活用した広報・PR活動のほか、H22年度は市内全小学校にクラブ加入案内チラシを配布したことで、目標会員数を達成することができました。当初、H26年度に目標として掲げていた1,800人以上という数字を昨年度達成したため、目標を上方修正(1,800人、2,300人)しました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、各クラブのチラシ、ホームページ作成などの広報・PR費、指導者の謝礼金、会場使用料などに活用されています。これにより、各クラブの設立当初の財務基盤を強化し、安定的な運営体制の構築を図っています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	設立クラブへの補助金による支援は今後、減少することが想定されます。また、定期的に活動内容を見直すなど、経済性や効率性を高めていく取組みが必要だと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	「新しい公共」として、総合型地域スポーツクラブは大きな役割を果たすことが期待されます。クラブの会員数を増やすには継続的な取組みが必要であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本市の次期「スポーツ振興計画」においても、総合型地域スポーツクラブの支援は重点施策の一つに位置づけることとしており、また「新しい公共」としての役割が期待される中、一定期間、市が積極的に関与することが適当と考えられます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、「青少年の健全育成」を推進していくうえで重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取組みを進めていくことが適当だと考えます。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	小倉南区に設立された総合型地域スポーツクラブへの補助金支出(2年目:70万円)に加え、クラブの指導者養成や広報活動支援等の経費を助成するため、「総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じて、スポーツファンタジアなどの交流行事や勉強会などを開催します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局スポーツ振興課
連絡先	582-2395

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	ドリームスポーツタウン推進事業
-----	-----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	Jリーグ2部(J2)で活躍する「ギラヴァンツ北九州」の選手やコーチングスタッフが市内の小中高生等を対象として、サッカーの実技指導を行い、青少年の健全育成やサッカー技術の向上を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催		・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催
		これまでの進捗状況・今後の予定	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催		・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催	・サッカー巡回指導 ・サッカークリニック ・ドリームスポーツ体験教室 ・女子サッカー大会の開催
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標		
	巡回指導の生徒数	計画	4,000 人	4,000 人	年度	平成26年度			
	プロの選手等から直接、技術指導を受けることで、健全育成や技術力向上を図ることを目的とします。	実績	2,960 人		内容	4,000人			
		達成度	74 %	%	年度				
		計画			内容				
		実績			年度				
	達成度	%	%	内容					
コスト	事業費	9,888 千円	9,984 千円						
	うち一般財源	9,888 千円	9,984 千円						

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市内の小中高生を対象に各学校等へ選手を派遣する「サッカー巡回指導」、市内の高校・大学のサッカー部を対象に、選手及びコーチングスタッフによる集中的な技術指導を行う「サッカークリニック」、堺プレイヤーズとギラヴァンツ北九州による「ドリームスポーツ体験教室」、女子サッカーを広く市民に紹介するために、ギラヴァンツ北九州ガールズ及び県内・近県から招いた女子サッカーチームとの対抗戦等を実施し、受講者数も順調に推移しています。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、プロスポーツ選手から直接指導を受けることのできるものであり、青少年の健全育成には大きく寄与するものと考えています。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	プロスポーツ選手を有するチーム運営会社への特命随意契約ではあるものの、定期的に活動内容を見直すなど、経済性や効率性を高めていく取組みは行っています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	ギラヴァンツ北九州は昨年Jリーグに昇格したばかりであり、本市初となるプロスポーツチームである以上、現在が本事業を行うのに最適な時期と考えています。	
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	「元気発進！北九州」プランにおいても、プロスポーツを通じて市民が一体となり、本市に誇りや愛着を持てるような「シンボル」事業の推進を掲げており、市の関与が必要であると考えられます。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「青少年の健全育成」を推進していくうえで重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取組みを進めていくことが適当だと考えます。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市の様々な媒体を活用して、ギラヴァンツ北九州の認知度向上を図るとともに、利用者が拡大するよう学校側にも働きかけを行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局スポーツ振興課
連絡先	582-2395

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	わくわく体験スポーツ教室
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	近年、テレビゲームなどの屋内遊具の発展・普及により、青少年の運動不足が懸念されており、特に冬期には屋外での運動が減少する傾向にあります。そこで、冬期のスポーツとしてバランス感覚や柔軟性の向上に最適なアイススケート教室を、学校授業の一環として実施し、青少年の健全育成と生涯スポーツの振興に役立てるものです。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)		市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)
	これまでの進捗状況・今後の予定	市内131校で実施	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)	市内の全市立小学校(第一及び第二学年児童)が参加(全131校)		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	スケート体験実施小学校数				計画	131 校	131 校	年度
	冬期スポーツを体験することで、運動への興味を高め、意欲の向上を図ります。				実績	131 校		内容
					達成度	100 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
コスト					事業費	20,235 千円	20,951 千円	
					うち一般財源	20,235 千円	20,951 千円	

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初計画どおり131校のすべてでスケート体験を実施することができました。ただし、インフルエンザによる学級・学年の中止は数校ありました。今後も冬季にはインフルエンザが流行する可能性があります。日程の変更等で柔軟に対処し、全校実施を目指します。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	・小学校で教室実施後、多くの児童がリピーターとしてスケート場に来ているとの報告がありました。学校を通じて全児童に体験させることで、余暇を利用してスケートに取り組む意欲が促され、効果が高かったと考えられます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	・バス送迎業務を入札にすることで、比較的lowコストで実施できています。 ・スケート教室には十分に経験をもつ指導者をお願いしており、人数の上でも充実しています。市内に1箇所しかないリンクを有効に使うことができています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	・小学校の低学年にさまざまなスポーツ体験をすることで、自分にあったスポーツ探しの一助となり、スポーツへの意欲向上にもつながります。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	・市内全市立小学校に実施するため、学校との連絡調整、学校への理解などが必要になるため、市の主催事業として続けるべきです。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	・施設が現状のまま(スケート場の数、開場期間)であれば、現状のまま進めることが適当であり、回数や学年の変更は難しいと考えます。しかし、現時点でも市立小学校に在籍している全員がスケート体験をしたことになるので、継続して実施することが望ましいと考えます。	

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	・今年度同様に実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	教育委員会 生涯学習課
連絡先	582-2385

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	学校開放事業
-----	--------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	学校教育に支障のない範囲で小・中学校の施設を市民に開放し、地域スポーツの普及及び児童の安全な遊び場として、地域の協力を得ながら、市民の利用に供することにより、地域社会全体が教育を支える社会を実現します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	学校開放事業の実施 遊び場開放指定校数 130校 スポーツ開放指定校数 192校						新たな計画に基づき実施する予定
これまでの進捗状況・今後の予定		遊び場開放指定校数 128校 スポーツ開放指定校数 182校	学校開放事業の実施 遊び場開放指定校数 130校 スポーツ開放指定校数 192校			新たな計画に基づき実施する予定			
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
	遊び場開放指定校数・施設開放率				計画	130 校	130 校	年度	平成25年度
	小学校の運動場又は体育館を当該小学校の校区内の児童の遊び(児童の団体が行うスポーツを含む。)の場として開放します。遊び場開放、スポーツ開放を合わせ、100万人に及び市民が利用しています。				実績	128 校		内容	施設開放率 100% 130校
					達成度	98.5 %	%		
	スポーツ開放指定校数・施設開放率				計画	192 校	192 校	年度	平成25年度
	小学校又は中学校の運動場又は体育館を成人及び勤労青少年の団体が行うスポーツの場として、中学校の武道場を成人及び青少年の団体が行う武道の場として開放します。遊び場開放、スポーツ開放を合わせ、100万人に及び市民が利用しています。				実績	182 校		内容	施設開放率 100% 192校
達成度					94.8 %	%			
コスト					事業費	40,143 千円	43,259 千円		
					うち一般財源	29,866 千円	33,146 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域スポーツの振興及び児童の安全な遊び場としての機能を発揮するとともに、少年少女の団体スポーツも盛んに行われており、青少年の健全育成に貢献していると考えます。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	地域スポーツの振興及び児童の安全な遊び場としての機能を発揮するとともに、少年少女の団体スポーツも盛んに行われ、年間100万人に及び市民に利用されており、生涯スポーツの振興とともに青少年の健全育成に貢献していると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	適宜、国の補助金を活用するとともに、管理指導員に地域の人材を活用しており、地域の教育力を高めながら効率的、効果的に推進していると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	地域スポーツの場、児童の安全な遊びの場として、子どもの人格形成や体力の向上、さらに本市の生涯スポーツの振興に重要な役割を担っており、引き続き実施する必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	国から学校施設開放事業の促進について通達が出されるとともに、学校教育法、社会教育法、スポーツ振興法にも、学校施設の利用について規定されており、これを管理する市を実施主体とすることが適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も学校教育に支障がない範囲で積極的に学校施設の開放を推進します。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後も学校教育に支障がない範囲で積極的に学校施設の開放を推進します。					前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------------------------	--	--	--	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会 文学館
連絡先	571-1505

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	夏休み子ども文学館開催事業
-----	---------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展、イベント、作品募集などを開催し、文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的とします。 子どもたちに魅力のある企画展の開催と、PR活動の工夫を行い、利用客の増加を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成

【手】	【目】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
			当初の予定	夏休み企画展 入館者 5,000人 あなたにایتたくて生まれてきた詩コンクール等の実施 作品応募数 500件				
	これまでの進捗状況・今後の予定	夏休み企画展入館者 2,095人 詩コンクール応募 1,796件	夏休み企画展 入館者 5,000人 あなたにایتたくて生まれてきた詩コンクール等の実施 作品応募数 500件					
【内容】	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標	
		夏休み企画展の入館者数	計画	5,000 人	5,000 人	年度	平成26年度	
		子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行なっている企画展のため、その入館者数を成果としました。	実績	2,095 人		内容	5,000人	
		あなたにایتたくて生まれてきた詩コンクール作品応募数	計画	500 件	500 件	年度	平成26年度	
		子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行なっている詩のコンクールのため、その応募者数を成果としました。	実績	1,796 件		内容	500件	
			達成度	41.9 %	%			
【コスト】	コスト	事業費	4,076 千円	4,563 千円				
		うち一般財源	4,076 千円	4,563 千円				

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	夏休み企画展について、広報不足、今回の企画展の内容は、従来までの夏休み企画展とは違い、コロボックル、ずっこけ3人組などのキャラクターを持たない展示会であったため市民に浸透しなかった、などが影響し入館者が伸びませんでした。一方、詩のコンクールは、当初見込みを大幅に上回る応募がありました。
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	企画展ではより幅広い子どもたちに気軽に文学に触れる機会を提供し、ペンクラブでは文章に興味を抱いた子どもたちに指導することで更に関心を高め、詩のコンクールでは目標以上の応募があり、施策の実現に十分効果があったものと思われま。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	子どもたちの関心、興味を引く展示を行うには、その都度違う内容の展示を行なう必要があり、前年と比較し高くなったり、安くなったりすることがあります。しかしより無駄な出費を抑え、子どもたちがより興味を持つ展示会を提供できるよう内容の検討をしていきます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子どもたちにとって様々な体験のできる夏休みに、文学を対象とした事業が少ない状況です。国語教育の見直しが行われている中、入館者アンケートによると、市民からも高い評価を得ています。これは文学に親しむきっかけをつくるとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことにつながっていきます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市が直営であることで、関係者などからも信頼を受け、企画展開催時に資料を借り受け、より質の高い展示を提供することができます。またコンクールにおいても市主催ということで、より質の高い詩や作品が集まってくるのが期待されます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	夏休み企画展の関連イベントについては、定員を超える応募があり、アンケートも好評でした。さらに子どもが興味を抱く展示手法やイベントを検討し、また費用対効果を鑑みながら効果的な広報手段を検討し、魅力ある企画展を子どもたちに広くPRし、来館者増を目指します。詩のコンクールではさらに広くPRを行い、裾野を広げます。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	夏休み企画展については、広報手段を見直し、より市民に浸透を図っていきます。また詩のコンクールは、市内に限らず市外からも応募があるよう積極的にPRを図っていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局・文化振興課
連絡先	582-2391

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	子どもたちの文化体験事業
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもたちの豊かな表現力や感性を養うとともに、文化への理解関心を深めるため、音楽・演劇等文化施設をはじめ、学校や地域等で文化関係者が指導を行う文化体験事業を実施します。(一部事業には「指定管理者」が運営)
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	北九州市子どもノンフィクション応募件数 1600 子ども文化体験事業参加者人数 4900					
これまでの進捗状況・今後の予定	北九州市子どもノンフィクション応募件数 1064 子ども文化体験事業参加者人数 3644	北九州市子どもノンフィクション応募件数 1800 子ども文化体験事業参加者人数 4700	北九州市子どもノンフィクション応募件数 1800 子ども文化体験事業参加者人数 4700	北九州市子どもノンフィクション応募件数 2000 子ども文化体験事業参加者人数 4500	北九州市子どもノンフィクション応募件数 2000 子ども文化体験事業参加者人数 4500			
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	子どもノンフィクション応募者件数				計画	1,600 件	1,800 件	年度 平成26年度
	平成21年度に創設した文学賞であるため、応募件数の予想や結果分析はまだ困難ですが、今後も引き続き、全国の小中学生に向けて積極的に広報活動を実施します。				実績	1,064 件		内容 2,000件
	子ども文化体験事業参加者人数				達成度	66.5 %	%	年度 平成26年度
	北九州市市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサート(学校等訪問コンサート)や、学校での演劇ワークショップなど、身近に体験できる事業を実施します。				計画	4,900 人	4,700 人	内容 4,500人
	北九州市市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサート(学校等訪問コンサート)や、学校での演劇ワークショップなど、身近に体験できる事業を実施します。				実績	3,644 人		内容 4,500人
【コスト】	子どもノンフィクション文学賞12,209千円(うち一般財源12,209千円) 芸術文化体験事業(学校等訪問コンサート)2,799千円(うち一般財源2,799千円)				事業費	15,008 千円	千円	
					うち一般財源	15,008 千円	千円	

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	子どもノンフィクション文学賞については、当初設定目標の1,600編には到達しませんでした。H22年度も全国各地の子ども達から1,000編を超える多くの作品をご応募いただき、審査員からの評価も高い力作がそろいました。昨年度に比べ、小学生や海外からの応募数が増加し、H21年度には応募のなかった北海道や北陸・信越地方からも応募があり、全国的に広がりました。学校等訪問コンサートは、プロの音楽家が通常演奏するコンサートホールから、学校に出向いて演奏し、子ども達と交流するものです。実際に演奏を聞いて、音楽の美しさ、楽しさを実感してもらえたと思います。
--------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	本事業をきっかけに、興味をもち、継続して文化活動に取り組んでいる子どもたちがおり、将来の担い手の育成に貢献しています。	
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	当日の運営業務等は外部委託を行い、低コストで実施しています。しかし、高い効果が得られるようにさらに、工夫する余地はあります。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	施策実現のため、今後も事業を実施していく必要があると考えます。ただし企画内容等を工夫する余地はあると考えます。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		3	事業の趣旨等を勘案すると、実施主体は市が適切と考えています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	主に子どもたちを対象に文化に身近に接してもらおうという事業であり、「芸術・文化の担い手の育成」を図っていく上で重要な事業であると考えています。事業の実施に向けて、外部へのアウトソーシングの検討を行いつつ、目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	【子どもノンフィクション文学賞】 応募内容の分析を行い、より効果的なPR方法を検討し、事業効果を念頭に置きつつ経費削減に努めます。 【学校等訪問コンサート】 なるべく多くの子供達に触れってもらうため、昨年・一昨年と訪問できなかった学校を中心にコンサートを実施します。また、外部へのアウトソーシングの検討を進めていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	市民文化スポーツ局・文化振興課
連絡先	582-2391

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	子ども文化ふれあいフェスタ
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成			

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人				
これまでの進捗状況・今後の予定	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,015人	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数 1,600人	
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	子ども文化ふれあいフェスタ参加者人数		計画	1,600 人	1,600 人	年度	平成26年度
	子ども文化ふれあいフェスタは、子どもたちを対象に様々な文化体験・鑑賞ができる事業であり、文化を身近に感じてもらうことにより、子どもたちの豊かな人間性と多様な個性をはぐむものです。		実績	1,015 人		内容	1,600人
			達成度	63.4 %	%	内容	
			計画			年度	
			実績			内容	
		達成度	%	%	内容		
【コスト】	芸術文化体験事業(子ども文化ふれあいフェスタ分)2,557千円(うち一般財源2,257千円)		事業費	2,557 千円	千円		
			うち一般財源	2,257 千円	千円		

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	子ども文化ふれあいフェスタでは、子どもたちが普段接することがあまりないと思われる伝統芸能の分野(日本舞踊、いけばな、琴等)を中心としたものです。実際に体験してもらうことで、その楽しさを実感してもらえたと思います。また来場者アンケートでは、95%が楽しかったという回答を得ることができました。
------	-------------------------------------	---

**【事業の再検証】**

【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	本事業をきっかけに、興味をもち、継続して文化活動に取り組んでいる子どもたちがおり、将来の担い手の育成に貢献しています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	当日の運営業務等は外部委託を行い、低コストで実施しています。しかし、高い効果が得られるようにさらに、工夫する余地はあります。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	芸術文化に接する機会をつくり、将来の担い手を育成するためには、今後も事業を継続的に実施していくことが重要だと考えます。ただし企画内容等を工夫する余地はあると考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	事業の趣旨等を勘案すると、実施主体は市が適切と考えています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	子どもたちを対象に文化に身近に接してもらおうという事業であり、「青少年の健全育成」を図っていく上で重要な事業であると考えています。事業の実施に向けて、見直しを図りつつ、目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。

**【次年度計画】**

目的実現のために23年度に実施すること	企画内容等を工夫しながら、事業の見直しを行い、目標達成に向けて取り組んでいきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局・文化振興課
連絡先	582-2391

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	少年少女合唱団・ジュニアオーケストラ育成
-----	----------------------

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラの活動を通じて、合唱技術や演奏能力の向上並びに団員相互の親睦を深め、情緒豊かな青少年を育てるとともに、市民文化の高揚を図ります。(両事業とも、指定管理者が運営)		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【手段】 目的実現の為に実施する内容	実施工程	年度					計画変更理由
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
		当初の予定	北九州市少年少女合唱団の団員 90人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 110人	北九州市少年少女合唱団の団員 90人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 110人	北九州市少年少女合唱団の団員 90人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 110人	北九州市少年少女合唱団の団員 90人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 110人	
これまでの進捗状況・今後の予定	北九州市少年少女合唱団の団員 58人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 116人	北九州市少年少女合唱団の団員 90人 北九州市ジュニアオーケストラの団員 110人					
実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）			平成22年度	平成23年度	目標	
	北九州市少年少女合唱団の団員数		計画	90人	90人	年度 平成26年度	
	北九州市少年少女合唱団に在籍している人数を指標とします。		実績	56人		内容 90人	
	北九州市ジュニアオーケストラの団員数		達成度	62.2%	%		
コスト	北九州市少年少女合唱祭 168千円 北九州市少年少女育成事業 5,339千円 北九州市ジュニアオーケストラ育成事業 8,101千円 ジュニオケ新潟フェスティバル 3,996千円		事業費	17,604千円	千円		
			うち一般財源	16,315千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	少子化及び青少年活動の多様化に伴い、特に合唱団の団員は減少傾向にあります。子どもを対象とした合唱団は市内に他に6団体ありますが、オーケストラは唯一の団体となります。合唱祭等やジュニオケフェスティバル等で他の団体と交流を深めることができました。
-------------------	------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】	評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	合唱団は昭和49年から、ジュニアオーケストラは昭和56年から活動を行っており、音楽性の向上、地域社会の音楽文化の向上および将来の担い手の育成に貢献しています。
経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	団員が高い音楽性・芸術性を身に付けることができるよう、さらに工夫する余地はあります。
適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	芸術文化に接する機会をつくり、将来の担い手を育成するためには、今後も事業を継続的に実施していくことが重要だと考えます。ただし、育成内容を工夫する余地はあると考えます。	
市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	事業の趣旨等を勘案すると、実施主体は市が適切と考えています。	
今後の方向性		評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	A	子どもたちを対象に、高い音楽性・芸術性を身に付けさせる事業であり、「青少年の健全育成」を図っていく上で重要な事業であると考えています。事業の実施に向けて、見直しを図りつつ、目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適切だと考えます。

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	新たな団員の獲得を図りながら、定期演奏会に向け、レベルの高い音楽活動を行うことで「青少年の健全育成」を図っていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b style="font-size: 2em;">22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局児童文化科学館
連絡先	671-4566

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	ジュニアマイスター養成講座
-----	---------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもたちに科学体験やものづくりを通して、北九州市の産業を支える技術者が築き上げた「ものづくり」の精神を伝え、新しい時代を切り開く科学技術の根幹となる「科学がすき、ものづくりがすき」な子どもたちの育成を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	8000人	事業の目的達成に向け積極的に科学普及やものづくりの普及活動を推進				▶	
これまでの進捗状況・今後の予定	参加者数:7,457人	事業の目的達成に向け積極的に科学普及やものづくりの普及活動を推進				▶			
実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）						平成22年度	平成23年度	目標
	参加者数		計画	8,000	人	8,000	人	年度	
	科学実験・科学工作等の参加者の増加が、その普及活動の拡大を示すものであることから活動指標として掲げました。		実績	7,457	人			内容	8,000人
			達成度	93.2	%		%		
			計画					年度	
			実績					内容	
		達成度							
コスト			事業費	千円	千円			▶	
			うち一般財源	千円	千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各教室への参加者数も順調に推移しています。
------	-------------------------------------	-----------------------

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	子どもの発達段階に応じた各種教室を開催し、概ね定員を超える応募があります。高等教育機関や企業の協力やサイエンスレンジャーによる科学実験や工作などを実施し、参加からは好評を得ています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	平成18年度に比べ56%の事業費となり、H19年度に事業の見直し整理を行いました。大学や研究機関、地元企業の協力を得て、新たなイベントを企画・実施していますが、これ以上の事業費減では市民の要望に最低限応えることはできません。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子ども達の理科離れが社会的な問題となっています。子ども達が主体となって科学やものづくりに取り組んだり、親子が一緒になって科学実験や科学工作に参加することは「科学がすき、ものづくりがすき」な子ども達の育成に有効です。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本館は本市で唯一、子ども達が科学実験や科学工作を体験を通して「科学やものづくりの心を育てる」ことができる社会教育施設です。生涯学習の視点に立って本市が地元企業や教育機関と連携し、青少年の健全育成に関わることは必要不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも目標達成に向けより魅力的な取り組みを計画・PR・実施します。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	一年を通して多くの参加者を得るためには、PR活動が必要です。特に12月～3月に来館者数は減少するため、市民への事業の周知に向けたPR活動と、1月に多くの市民が参加できる新春サイエンス祭りを実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	こども文化パスポート
-----	------------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間中、文化施設をはじめとする様々な施設に無料(一部割引)で入場できるパスポートを子どもたちに配布します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	年度					計画変更理由
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
実施状況	当初の予定	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	新たな計画に基づき実施する予定	
	これまでの進捗状況・今後の予定	パスポート事業の実施 利用者数 9万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	パスポート事業の実施 利用者数 15万人	新たな計画に基づき実施する予定	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	パスポート利用者数		計画	15 万人	15 万人	年度	H25年度
	北九州都市圏(北九州市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町)、下関市、長門市に在住または通学する3歳から中学校以下の子どもにパスポートを配布し、制度利用の周知を図ります。		実績	9 万人		内容	15万人
			達成度	60 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			内容	
コスト			事業費	4,630 千円	4,630 千円		
			うち一般財源	3,420 千円	3,400 千円		

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	パスポートは約149,700人の対象児童生徒等全員に配布するとともに、ホームページ等で児童生徒の参加を促した。平成22年度は新規にビンゴゲーム形式を導入したことにより、ビンゴの配列で重複した施設を避ける傾向や、リピーター減少などの影響により、パスポート利用者数が昨年より4万人減となった。しかしながら、夏休み期間中に概ね6割が利用し、多くの子どもたちが様々な地域の文化や歴史などに触れ、豊かな心を育むきっかけづくりにつながっています。
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	昨年度よりパスポート利用者数が4万人減少したとはいえ、多くの子どもたちが様々な地域の文化や歴史などに触れ、豊かな心を育むきっかけづくりにつながっています。また、親子のふれあう機会の増加にもつながっています。施設にとっては、子どもの保護者の入館も期待でき、さらに他都市と連携することで幅広い利用者を確保できています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	イベント等の充実を図り、より多くの施設を訪問する工夫をすることにより、パスポートを契機とした入場者数増加の効果があります。なお、下関市、長門市も事業費を応分負担しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	本事業は、市民に一定の評価を得ていることからH15年から毎年継続実施し、現在は下関市や長門市と共同実施しています。今後も広く市民や施設からのニーズを反映していく必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体は市であることが適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	予算削減の中で施設を巡る仕組み(スタンプラリー等)や特典(施設をクリアした後の抽選応募賞品)などのサービスを維持しつつ、今後も利用者にとって利便性の高い事業にしていきたいです。	

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成22年度の事業終了後、本事業の参加施設に対してアンケートを実施したうえで、改善点の整理を行い、平成23年度事業に反映させます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会 美術館普及課
連絡先	882-7777

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	わくわくアートミュージアム事業
-----	-----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	美術館と教育機関の連携強化を目的として、子どもたちの美術に親しむ態度を育て、学校の美術教育活動を支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	美術ジュニアボランティア養成講座の実施 子供向けワークショップの実施 小学生美術鑑賞教室の実施 たんけんパスポート発行					
これまでの進捗状況・今後の予定		上記の取り組みの結果 8,565人の参加を得た	美術ジュニアボランティア養成講座の実施 子供向けワークショップの実施 小学生美術鑑賞教室の実施 たんけんパスポート発行					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	「わくわくアートミュージアム」の参加者数				計画	13,300 人	13,300 人	年度 平成26年度
	「わくわくアートミュージアム」の参加者を増やすために、より魅力を感じるような事業を展開します。				実績	8,565 人		内容 13,300人
					達成度	64.4 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
コスト					事業費	2,987 千円	3,817 千円	
					うち一般財源	2,987 千円	3,817 千円	

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	わくわくアートミュージアム事業によって多くの小中学生が美術鑑賞教室、館内授業、ワークショップ等に参加し、美術を多様な形で楽しむことができたと思いますが、参加者数は前年度より 12.5%減少しました。これは「たんけんパスポート」の利用者数が、21年度の5,068人から1,385人減少したのが主な原因となっています。
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	わくわくアートミュージアム事業全体としては、たんけんパスポート利用者減の影響を受けて、参加者の人数が減少しましたが、小中学生を対象とした美術鑑賞教室は、21年度の4,299人から22年度の4,531人へと232人増加しており、子どもたちが本物の美術作品に触れる機会を増やすために非常に有効な事業であると考えています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	美術館ボランティアによる美術鑑賞教室の実施や本館学芸員によるワークショップの開催など、経済性と効率性を意識しながら事業を実施しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	子どもたちの感動する心や豊かな情操を養うとともに、学校の美術教育活動を支援するための事業です。実施しなかった場合、子どもたちの心を豊かにする機会が減り、施策実現に影響がおよぶと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	当該事業は長年にわたり美術作品の調査研究、展示、教育普及を行っている学芸員と学校教育の連携が必要であるため、市の関与が必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	子どもたちの感動する心や豊かな情操を養うため、現在及び将来にわたって美術館を積極的に活用し、美術に親しむ態度を育てるとともに、美術館の重要な役割のひとつとしての教育普及活動の内、学校の美術教育活動を支援するため、今後とも事業を推進したいと考えています。なお、たんけんパスポートの利用者を増加するための魅力増進対策として、家族で楽しめる企画展の開催や、パスポートの利用可能範囲をコレクション展にも拡大することなどを検討して行きたいと考えています。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	美術ジュニアボランティアの育成、子供向けワークショップの実施、美術館を活用した授業への支援(小学生美術鑑賞教室)、市内の小中学校児童生徒に「たんけんパスポート」の配布を今後も継続し、より充実させます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会 自然史・歴史博物館普及課
連絡先	681-1011

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	博物館セカンドスクール事業
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子供たちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1)博物館への誘致事業、(2)学校教育支援事業、(3)家庭教育支援事業、の3つの柱をかがげ、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	学校関係団体の入館者数 180団体					
	これまでの進捗状況・今後の予定	学校・団体の誘致 1,000団体と目標を修正し、 1,116団体誘致した。	学校・団体の誘致数 1,000団体と目標を修正			新たな計画に基づき 実施する予定		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	学校団体の誘致数				計画	1,000 団体	1,000 団体	年度
	博物館を訪れる学校団体を増やすため、誘致活動を行い、来館者数の確保に努めます。				実績	1,116 団体		内容
					達成度	111.6 %	%	1,000団体の誘致
					計画			年度
					実績			内容
コスト					事業費	2,118 千円	2,756 千円	
					うち一般財源	2,118 千円	2,756 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用PRビデオ等を作成し、市外学校団体の誘致活動を行い、来館数促進を図った。目標値を一昨年より、さらに上回ることができ、一定の成果を得ました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	学校関係者からの認知度は徐々に上がり、体験学習申込数や来館団体数も増加し、子どもの学習意欲向上に繋がっています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4	学校への働きかけの結果、来館した旅行会社等が修学旅行の訪問先として他県の学校等に紹介するなど、館のPR面からみて非常に効率的でした。誘致活動費としては最小限にとどめていると考えます。学校教育支援事業費、特に教材開発にその費用をあて、教育の効果性・効率性をより高めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	学校関係団体のみならず、旅行会社からも高い評価を受けており、団体を誘致する際に、体験学習などの館内活動が一つの目玉となっています。また、学校教育の支援からも継続的に行うことが必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4	学校団体が来館する際に、学校で行われている授業・指導内容に沿ったきめ細かな対応が可能なのは、博物館のミュージアムティーチャー(北九州市の教員)が配置されているためであり、現在のところ市の関与をなくしては事業が実施できません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	
			修学旅行、社会見学としての博物館利用PRビデオ等の作成、ホームページの一層の充実、ガイドブックの見直し等を行い、これらを有効的に活用して誘致活動を継続して展開し、市内外学校団体の来館数の維持・促進を図ります。また、学校教育カリキュラム用としての教材を開発、修正を行うことでより一層効果的な学習となるように努め、学校教育の一環としての博物館利用を促進します。これらを総合的にかつ継続的に進めることにより、より質の高いものにしていきます。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	修学旅行、社会見学としての博物館利用PRビデオ等の作成、ガイドブックの見直しを行い、これらを有効的に活用して誘致活動を展開し、市外学校団体の来館数促進を図ります。また、学校教育カリキュラム用としての教材を開発、修正を行うことでより一層効果的な学習となるように努め、学校教育の一環としての博物館利用を促進します。これらを総合的にかつ継続的に進めることにより、より質の高いものにしていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	環境局環境学習課
連絡先	582-2784

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	こども環境学習推進事業
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の未来を担う子どもたちを対象に環境教育副読本及び環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成、配布することで、環境学習を体系的、計画的に実施し、環境意識の高い児童、生徒の育成を目指します。また、こどもエコクラブへの登録呼びかけや活動サポート等を行い、環境学習の機会を提供します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	・環境教育ワークブック「みどりのノート」の作成、配布 ・環境カードゲーム「エコトリ物語」の作成、配布 ・こどもエコクラブの推進		・環境教育ワークブック「みどりのノート」の内容更新検討	・環境教育ワークブック「みどりのノート」改訂版配布	
これまでの進捗状況・今後の予定	・環境教育ワークブック「みどりのノート」の作成、配布 ・環境カードゲーム「エコトリ物語」の作成、配布 ・こどもエコクラブの推進 (2297人)		こどもエコクラブ登録メンバー数 3000人	・環境教育ワークブック「みどりのノート」の内容更新検討	・環境教育ワークブック「みどりのノート」改訂版配布		
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	こどもエコクラブ登録メンバー数			計画	3,000 人	3,000 人	年度
	3才から高校生の子どもたちが、地域の中での主体的な環境学習や実践活動を通じて、将来にわたり環境を大切にすることを意識し、環境にやさしい暮らし方を実践することを目的としたこどもエコクラブに登録し、活動を展開しているメンバー数。			実績	2,297 人		内容
				達成度	76.6 %	%	3,000人
				計画	人	人	年度
				実績			内容
【コスト】			事業費	4,352 千円	3,458 千円		
			うち一般財源	4,352 千円	3,458 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】		・こどもエコクラブの推進 未来ホテルデー、エコスタイルタウンに出展、PR。夏の交流会、壁新聞教室の実施。 ・環境教育ワークブック「みどりのノート」作成 市内の全小学生児童約4万人、教員約2千人を対象に作成、配布。「ふくおか減CO2自慢大作戦」(30団体が応募)で最優秀賞受賞。「低炭素杯」に出場、優秀賞受賞。平成23年度分「みどりのノート」増刷。 ・環境カードゲーム 3,000セット作成、市内の全小学校、市民センター、学童保育クラブに配置。配置施設を対象に、ゲームのルール等を紹介する出張講座(15回)を
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	

【事業の再検証】			
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	子どもを対象とした環境教育を行うために、「こどもエコクラブ」の活動を推進、また、環境教育ワークブック「みどりのノート」を小学生全児童配布するなどし、子どもたちに環境について考えるきっかけ作りはできています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 「こどもエコクラブ」は、民間企業等の支援を得ての全国的な活動が継続されており、子どもたちの環境への意識も高いので現状のままでもいいと考えます。「みどりのノート」に関しては、内容を検討・精選していくことで子どもたちに、より深い学びが行なえると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3 未来を担う子どもたちを対象とした環境学習は不可欠です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	3 子どもたちを対象とした環境学習を体系的、計画的に実施するためには、市が中心となって取り組み、環境学習の基盤を作る必要があります。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	全ての子ども達が環境について考える場を提供していくことが大切であると考えます。そのためにはまず教育委員会との連携を密にし、「みどりのノート」の効果的な活用方法を模索していく必要があります。また、環境について関心をもった子どもたちのために「こどもエコクラブ」をアピールし、内容の濃い学習会や体験会を企画し、参加を呼びかけていきます。

【次年度計画】			
目的実現のために23年度に実施すること	・こどもエコクラブの推進 ・環境教育ワークブック「みどりのノート」の配布・使用状況等のアンケート ・環境カードゲームの広報活動		前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	環境局環境学習課
連絡先	582-2784

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	菜の花プロジェクト関連事業
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	菜の花の栽培や菜種の搾油体験等を通じて、市民に「資源循環(菜種 食用油 セッケンやBDF(バイオディーゼル燃料))」や新エネルギーの利用促進につながることを体感し、学んでもらうことで環境意識の向上を目指します。そのため、菜種の配布や補助金の交付、市民公募イベントを実施します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>菜種の配布、回収</li> <li>搾油機の貸出、搾油の実演</li> <li>市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」春・秋実施</li> <li>菜の花プロジェクト補助金交付</li> <li>菜種回収団体数 30団体以上</li> </ul>				
これまでの進捗状況・今後の予定		<ul style="list-style-type: none"> <li>菜種の配布、回収</li> <li>搾油機の貸出、搾油の実演</li> <li>市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」春・秋実施</li> <li>菜の花プロジェクト補助金交付</li> <li>菜種回収団体数31団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菜種の配布、回収</li> <li>搾油機の貸出、搾油の実演</li> <li>市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」春・秋実施</li> <li>菜の花プロジェクト補助金交付</li> <li>菜種回収団体数 30団体以上</li> </ul>				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	菜種の回収団体数			計画	30 団体	30 団体	年度 平成26年度
	菜種の播種から収穫まで、地域や市民センター等の施設に関わる市民の目に触れる場所での栽培活動に取り組んだ団体数。この団体数が増えることで、資源循環をより市民に広く伝えることができると考えます。回収した菜種は搾油の実演に活用します。			実績	31 団体	団体	内容 32団体
				達成度	103.3 %	%	
				計画			年度
コスト				実績			内容
				達成度			
			事業費	1,516 千円	2,225 千円		
			うち一般財源	1,516 千円	2,225 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>菜種の配布、回収 菜種1万袋(40kg)配布、31団体から収穫した菜種を329kg回収</li> <li>搾油機の貸出、搾油の実演 搾油機の貸出し6回、河内でのイベント・エコスタイルタウン等で搾油実演</li> <li>市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」春・秋実施 春(5月30日)89名参加 秋(10月9日)79名参加</li> <li>菜の花プロジェクト補助金交付 8団体 8,580m<sup>2</sup></li> <li>廃油ステーションの拡大 市内47ヶ所(市民センター、スーパーマーケット等)</li> </ul>
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は資源の循環について、幼児から年長者までが気軽に学んだり取り組んだりできる内容です。学校や市民団体だけでなく、家庭でも実施可能です。幅広く市民に参加していただくことができる事業です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	2	菜種を無料配布し、それをもとに行う事業であるためコストを減らすことは困難です。しかし、河内温泉でのイベントでは、NPO団体に委託することで、より効率的に低コストで市民に楽しみながら環境学習に参加していただくことができています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	低炭素社会を目指し、様々な取組を進めている現在、資源循環やエネルギーの地産地消を身近に体感することができる事業であり、施策実現に貢献しています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	長期的に考えると市民主体で行うことが理想的です。しかし、現時点では菜種の配布や補助金の交付等、市が主体となり、市民を巻き込んだ取組を積極的に実施していくことが望ましいと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	<p>ア:事業の見直しを図ることが可能</p> <p>イ:休止・廃止を検討</p> <p>ウ:現状のまま進めることが適当</p> <p>エ:終了</p> <p>本事業は、幅広い年齢層を対象としており、継続して続けることで広がりを期待することができます。現在、補助金交付団体による菜の花を活用した環境学習をきっかけに、市民の間で菜の花プロジェクトの輪が広がっています。市民の環境力のさらなる向上を目指し、当面の間は現状のまま進めることが適当です。ただし、今後は植える場所について検討していく必要があります。また、イベントへの子どもたちの参加が2割程度であることから、参加を呼びかけていく必要があります。</p>

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>菜種の配布、回収(保幼・小・中学校に加えて、市民センターへ配布)</li> <li>搾油機の貸出、搾油の実演</li> <li>市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」春・秋実施</li> <li>菜の花プロジェクト補助金交付</li> </ul>	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	産業経済局地産地消推進課
連絡先	582-2080

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	わくわく農業体験事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	農作業体験等を通じて食の大切さを学ぶ食農教育として、小学生を対象に、農作業体験や作物を育てる体験、農家の話を聞く学習を支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	小学校で農作業体験等を実施					
	これまでの進捗状況・今後の予定	小学校16校で実施	小学校で農作業体験等を実施					
【実施状況】	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	農作業体験等の実施件数				計画	15 校	15 校	年度 平成26年度
	次代を担う子どもたちに作物を育てる体験等を通じて、食の大切さなどを学んでもらう「食農教育」として、小学生を対象に農作業や作物を育てる体験等を行う「わくわく農業体験」を実施するものです。				実績	16 校		内容 毎年度15校で実施
					達成度	106.7 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
【コスト】					事業費	6,220 千円	7,978 千円	
					うち一般財源	6,220 千円	7,978 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	小学生を対象とした「わくわく農業体験」では、バケツ稲による米を育てて収穫する体験などを延べ16校で実施し、1081人の児童に「食」と「農」の理解促進を図りました。
--------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	農林水産業と市民との交流という目的に対して、農林水産業への理解促進を図る本事業の取組は、有効性が高いと考えます。	
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	小学生の農業理解のための授業支援では、市の職員が出向いて指導するという方法は効率的であると考えています。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	市民の「食」への関心が高まるなか、地産地消の推進とあわせて交流を進めていく必要があると考えます。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	3	3	農林水産業と市民との交流に対しては、生産者団体をはじめさまざまな団体の関与が考えられますが、地産地消の推進や農林水産業の振興とあわせて、取組主体は市が適当であると考えられます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	本市農林水産業や地産地消に対する理解を深めてもらい、農林水産業との交流を進める本事業の取組は、農林水産業振興のうえ重要であり、今後も取組を進める必要があると考えています。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市民の「食」への関心が高まるなか、地産地消の推進とあわせて交流を進めていく必要があると考えます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	産業経済局地産地消推進課
連絡先	582-2080

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	地産地消推進事業
-----	----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地産地消の推進を通じて生産振興を図るため、食と農への理解促進を総合的に展開していきます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	・農作業体験等の実施 ・学校給食への市内産食材の供給促進				
	これまでの進捗状況・今後の予定	・小学校16校で体験等実施 ・学校給食への市内産野菜利用33%	・農作業体験等の実施 ・学校給食への市内産食材の供給促進				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	農作業体験等の実施件数			計画	15 校	15 校	年度 平成26年度
	次代を担う子どもたちに作物を育てる体験等を通じて、食の大切さを学んでもらう「食農教育」として、小学生を対象に農作業や作物を育てる体験等を行う「わくわく農作業体験」を実施するものです。			実績	16 校		内容 毎年度15校で実施
	学校給食の地場産物(野菜)の割合			計画	40 %	40 %	年度 平成25年度
	学校給食における地産地消を進めるため、学校給食用食材への市内産食材の供給を促進するものです。			実績	33 %		内容 40%
	達成度			達成度	106.7 %	%	
【コスト】	事業費				7,978 千円	7,978 千円	
	うち一般財源				7,978 千円	7,978 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	農作業体験等を通じて食の大切さを学ぶ食農教育として、小学生を対象に、農作業体験や作物を育てる体験、農家の話を聞く学習を支援します。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	農林水産業と市民との交流という目的に対して、農林水産業への理解促進を図る本事業の取組は、有効性が高いと考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	小学生の農業理解のための授業支援では、市の職員が出向いて指導するという方法は効率的であると考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	市民の「食」への関心が高まるなか、地産地消の推進とあわせて交流を進めていく必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	3	3	農林水産業と市民との交流に対しては、生産者団体をはじめさまざまな団体の関与が考えられますが、地産地消の推進や農林水産業の振興とあわせて、取組主体は市が適当であると考えられます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	本市農林水産業や地産地消に対する理解を深めてもらい、農林水産業との交流を進める本事業の取組は、農林水産業振興のうえ重要であり、今後も取組を進める必要があると考えています。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市民の「食」への関心が高まるなか、地産地消の推進とあわせて交流を進めていく必要があると考えます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	建設局 公園管理課
連絡先	2464

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	市民とともに進める自然環境の保護
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	自然環境の重要性に対する市民意識の啓発を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">施策名</td> <td>青少年の健全育成</td> </tr> </table>	施策名
施策名	青少年の健全育成		

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	自然観察会等の開催				
これまでの進捗状況・今後の予定	自然観察会等の開催 参加者数(H22年度) 9,382人		自然観察会等の開催				
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標		
	自然観察会等の開催参加者数	計画	-		年度		
	自然環境の重要性に対する市民意識の啓発を図るため、「自然観察会」等を開催します。	実績	9,382 人		内容		
		達成度	%	%	年度		
		計画			内容		
		実績			年度		
	達成度	%	%	内容			
【コスト】	ボランティアの協力を得ながら各有料公園の事業の一部として実施しており、明確なコストの算出が困難です。	事業費	0 千円	0 千円			
		うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度の自然観察会実施回数は、363回。適切な事業回数を確保できており、市民への普及が順調に進んでいます。
--------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	体験活動は意識の向上に有効であり、継続的に行っていくことで高い効果が期待できます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	各有料公園の運営には指定管理者制度を導入し民間による経営努力が行われているため、観察会実施にもそのノウハウが活かされています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	自然環境の保護は現在社会の重要な課題で市民の関心も高く、参加者からも好評を得ているため、高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	安定して継続的に行うことに効果があるため、市が実施することが適切です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も各有料公園の特性を生かして、魅力的な事業の実施を目指します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後も各有料公園の特性を生かして、魅力的な事業の実施を目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-----------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局 公園管理課
連絡先	2464

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	長野緑地「市民参加による農業体験教室」
-----	---------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図っていきます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	参加人数2,000人	参加人数2,000人	参加人数2,000人	参加人数2,000人		参加人数2,000人
	これまでの進捗状況・今後の予定	2,300人(H23.3現在)	参加人数2,000人	参加人数2,000人	参加人数2,000人	参加人数2,000人		
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	市民参加による農業体験教室の参加者数				計画	2,000 人	2,000 人	年度 平成26年度
	長野緑地における市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行い、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。平成26年度において参加者数2,000人を維持していることを目標として設定します。				実績	2,300 人		内容 2,000人
					達成度	115 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
【コスト】					事業費	2,600 千円	2,600 千円	
					うち一般財源	2,600 千円	千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	田植え、野菜の手入れ等一般市民向けのイベントを71回行い、延2,300人の参加がありました。
--------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	3	「市民参加による農業体験教室」は参加状況から子どもの成長を支える環境づくりに役立っています。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 「NPO法人 長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅から長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利といえます。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 「市民参加による農業体験教室」は、様々な実施体験を通じ、人を育てる事業であり、継続して事業を進めることに意味があります。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指している。民間事業者のみで収益を確保し、「市民参加による農業体験教室」を実施することは不可能です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、「市民参加による農業体験教室」の実施しています。公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図るには、現状のまま進めることが適当です。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	未整備の既買収地の有効活用を図るとともに、参加人数年間2,000人を目標とし、「市民参加による農業体験教室」の発展充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	建設局・公園管理課
連絡先	582-2505

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	到津の森公園環境学習プログラム
-----	-----------------

【事業的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	到津の森公園は、市内の教育関係施設(ほたる館、水環境館、板櫃川「水辺の学校」と連携し、市内の小中学生を対象に体験活動を通じた3つの環境学習プログラム(～)と、小学校の先生を対象にしたプログラムを提供します。学習内容は命や環境、自然などいくつかのテーマの中から選択でき、長期学習プログラム(園での通年の総合学習)、1日学習プログラム(園と市内教育関係施設の中から選択した施設、その2施設が連携した学習プログラム)、遠足向け学習プログラム(遠足で園を利用する小学生のための学習プログラム)などがあります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	青少年の健全育成	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由 23年度以降、段階的に参加増を目指します。		
			市内施設連携による学習プログラムの実施							
		これまでの進捗状況・今後の予定	(変更計画)	参加校数 35校 参加者数 3,100人	参加校数 35校 参加者数 3,000人	参加校数 35校 参加者数 3,000人	参加校数 35校 参加者数 3,000人		参加校数 35校 参加者数 3,000人	
			(実績)	参加校数 46校 参加者数 3,446人	参加校数 45校 参加者数 3,500人	参加校数 45校 参加者数 3,550人	参加校数 50校 参加者数 3,600人		参加校数 50校 参加者数 3,650人	
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標				
		到津の森公園環境学習プログラムの参加者数		計画	3,100 人	3,500 人	年度	平成26年度		
		どれだけ多く総合的な学習機会を提供できたかを計るため、「参加者数」という活動指標を選択しました。		実績	3,446 人		内容	3,650人		
				達成度	111.2 %	%	年度			
				計画			内容			
				実績			内容			
コスト			事業費	5,869 千円	8,500 千円					
			うち一般財源	5,869 千円	4,250 千円					

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度の各プログラムの実施状況は、 長期学習プログラム 1校(6回)、延べ168人参加、1日学習プログラム 31校 2,173人参加、 遠足学習プログラム 14校 1,047人参加、先生向けプログラム 58人参加で 合計 46校 3,446人と、計画を上回る参加校数、参加者数を得ることができました。 なお、先生向けプログラムは、市の教育委員会主催のシンポジウムと併催したため、前年度の4倍の参加者がありました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	市内の施設(到津の森公園、ほたる館、水環境館、板櫃川「水辺の学校」)が連携した体験活動(ひとつのテーマを複数施設で多角的に体験学習する)を通じて、児童が陸上・水中など様々な視点から環境や命の大切さを学習できる貴重な人材育成の場となっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	教育委員会や市内教育関係施設の協力のもと、事業実施の核となる到津の森公園の指定管理者に直接事業委託しており、低いコストで高い効果を得られています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	人材育成は、毎年着実に実施し続けることが肝要であり、一時的であっても中止することは施策実現が困難となります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	本事業は、本市の将来を担う人材を育成する重要な事業の一つです。また、事業を実施している到津の森公園は、指定管理者による利用料金制度で運営していますが、本事業は収益事業ではないため、市の関与(事業費の負担)が無くては事業実施ができません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	より多くの小学生に学習の機会を提供するためには、人材の育成・確保や連携する市内教育関係施設の開拓(掘り起こし)など受入れ体制の強化が必要です。 22年度は、連携施設に「洞海ジオパーク」を加え、年度末までに「マダガスカルとの希少動物保護事業」との連携による新たなプログラムを開発しました。 23年度からは、担当スタッフの増員、受入れ学校の拡大、プログラムの充実を図って、参加校数・参加者数の増加を目指したいと考えています。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度以降は、まず、受入れ体制を強化し(スタッフの増員)、プログラム内容の充実を図って、段階的に参加校数・参加者数の増加を図っていきます。また、新たに「特別支援学校小学部」及び「朝鮮初級学校」の生徒の受入れを開始します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・指導第一課
連絡先	582-2367

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	環境教育推進事業
-----	----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	環境モデル都市としての北九州市の独自性を活かし、体験的な学習を通して子どもたちの環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図っていきます。また、成果等を広く紹介し、学校のみならず、家庭や地域の人々の環境に対する関心や意識を高め、環境保全への実践的な活動が市民全体に広まることを目指します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>青少年の健全育成</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	環境学習の実施(環境体験科・エコツアー) 144校 指定校での環境教育推進 指定校(累計)12校 子どもサミットの実施	150校程度の継続実施	指定校(累計)18校	指定校(累計)24校	
これまでの進捗状況・今後の予定	環境学習の実施(環境体験科・エコツアー) 144校 指定校での環境教育推進 指定校(累計)12校 子どもサミットの実施	150校程度の継続実施	指定校(累計)18校	指定校(累計)24校	指定校(累計)30校	新たな計画に基づき実施する予定	
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標		
	環境学習体験校(累計)	計画	144 校	150 校	年度	平成25年度	
	各施設での子どもの発達段階に応じた体験的な学習プログラムを体験することにより、子どもの環境に関する興味・関心や学習意欲等が高めるようにします。	実績	144 校		内容	150校以上(累計)	
	子どもサミット参加校	計画	5 校	5 校	年度	平成25年度	
【コスト】	先進的な取組を行っている小・中学校の児童生徒による、環境保全にかかわる実践発表、意見交換や大人への提言等を行い環境教育を全校・園ならびに広く一般市民に普及させます。	実績	5 校		内容	5校以上	
	事業費	17,963 千円	19,673 千円				
	うち一般財源	17,963 千円	19,673 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度は、環境体験活動を重視し、これまで実施してきたエコツアーに加え、小学校の4年生を対象に、市内の環境関連施設を見学したり、体験したりする「環境体験科」を全小学校で実施しました。子どもたちの環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を推進することができました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	予算枠を超える「北九州エコツアー」の希望校があることや「環境体験科」の全小学校の実施、「環境首都！サミット」の一般市民を含む参加者が多いことなどから、学校のみならず、家庭や地域の人々に環境に対する関心や意識を高めるのに有効でした。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	環境局等の他部局の事業を広く学校に紹介するなど、連携を図ることで、経費の削減、効率のアップに努めました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本市の大きな施策の一つである環境教育は児童生徒や学校関係者だけでなく、市民の大きな関心事の一つです。環境教育推進事業を実施しないということは、市民の市政に対する期待感を失うことにつながります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	環境モデル都市に選定され、環境首都を目指す本市において、本市の独自性を活かした学校における環境教育を実施するには、ソフトとハードの面から、今まで以上に市が実施主体として関与する必要があります。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	環境首都を目指す本市において、環境保全のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図るために、体験活動を重視し、とくに北九州市独自の環境教育関連施設(平尾台・エコタウン・環境ミュージアム・山田緑地)等での体験学習を充実させるために、小学4年生では総合的な学習の時間に「環境体験科」を実施しています。さらに、体験学習において、平成22年度に作成した北九州独自の環境教育プログラムの小学校版に続き、今後は中学校版を作成します。また、今後も校舎等の増改築時に太陽光発電設備を設置し、引き続き環

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	環境保全のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図るために、体験活動を重視し、とくに北九州市独自の環境関連施設等での体験学習を充実させるために、引き続き、「環境体験科」を実施します。さらに、平成22年度に作成した北九州市独自の環境教育プログラムの小学校版に続き、平成23年度は、中学校版を作成します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------